

第6回 食品産業もったいない大賞

食料産業もったいない大賞 審査委員会委員長賞受賞

サステナビリティ経営

～社会課題の解決と企業価値向上を両立させるために～



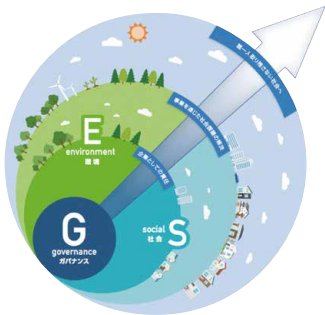
株式会社セブン&アイ・ホールディングス

セブン&アイ・ホールディングスでは、企業価値向上と持続可能な社会の実現に向けて、SDGsと自社の重点課題との関連性を整理した。同時にバリューチェーンとして①調達→②商品企画・開発→③製造→④物流→⑤営業・販売→⑥廃棄の流れ全てにおいてよりよい社会のありかたを模索し、新しい価値の創造に挑戦している。

- ①調達②商品企画・開発では、商品包材に着目し、2030年度までに全セブンプレミアムの商品包材を環境配慮型包材に切り替えを計画。
- ③製造段階では、セブン-イレブンのサラダを入荷から製造まで一貫して4℃以下で管理する事により、販売鮮度を1日延長する事に成功。販売量2割増、廃棄ロス2%削減と結果が出ている。
- ④物流では燃料電池トラックの導入検討。
- ⑤営業販売では、九都県市廃棄物問題検討委員会が主催する食品ロス削減を促進するキャンペーンに同エリア内のデニーズ・ファミールが参画。自治体と連携してお客様と一緒に食品ロスの発生抑制に取り組んだ。その他、セブン-イレブン・ジャパンは、横浜市社会福祉協議会と商品寄贈に関する協定を締結。店舗改装や閉店に伴う在庫商品を寄贈。イトーヨーカドーではフードバンク団体へ食料品の寄贈を行っている。
- ⑥廃棄に関しては、店舗で発生した食品残渣を堆肥化し提携農家で使用。店舗回収した25,244tのペットボトルは、パッケージやボトルにリサイクルされると同時にCO₂削減にも効果を発揮。お取引先様やお客様と共に環境循環型社会を実現した。

サステナビリティ経営

■企業価値向上と持続可能な社会の実現に向けて



当社グループは「信頼と誠実」の精神のもと、様々な社会環境の変化に対し、これまで培ってきた事業インフラやノウハウなどの強み、経営資源を活かして、中長期的な企業価値向上と持続可能な社会の実現に取り組んでいます。

バリューチェーンにおける企業価値の向上

■セブン&アイグループのバリューチェーン



セブン&アイグループは、グループ傘下の幅広い業態が連携し、お取引先と協働しながら、お客様のライフスタイルに寄り添った商品・サービスをお届けしています。誕生から10年が過ぎたグループ共通のプライベートブランド「セブンプレミアム」は、その成果の一つです。常にお客様一人ひとりのニーズに向き合うとともに、よりよい生活、よりよい社会のあり方を模索し、新しい価値の創造に挑戦し続けることが、私たちの使命です。

今回の取り組みについて総務部 渉外 オフィサー 藤乗 照幸様にお話を伺いました。

Q 今回の取り組みのきっかけをお聞かせください

A もったいない大賞のコンセプトに対し、当社の日頃の取り組み内容がマッチする点も多くあると思いエントリーさせていただきました。

Q 今回の取り組み以外にもお客様の家庭でのロス発生に気を使っているのでしょうか

A おっしゃる通りです。店舗において、売れ残りそうな商品の値下げや売り切り徹底は、商売の基本ですが、一方で、お客様には必要以上にお買い上げ頂いてしまうことで、結果として家庭における食品ロスを招くことの無いよう、量り売りや少量パックの品揃えなど売り方の工夫に努めています。

Q 今後どのように活動を拡げられますか

A 自社の重点課題への取り組み精度を上げていきます。具体的には食品ロス削減などの取り組みにあたり、従業員における環境意識の底上げの一環として、2020年までにエコ検定合格者数12,000名を目標としています。また、食品ロス削減は、サプライチェーン全体の課題であると捉え、今回の横浜市様、社会福祉協議会様との取り組みのように、ご協力頂けるパートナーを増やしていきたいと考えております。



▲総務部 渉外 オフィサー 藤乗 照幸 様